

平成30年6月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成30年6月の山梨県内の全業種のD I値は、前年同月と比較し、売上高は20ポイント、収益状況は16ポイント、景況感は10ポイント改善した。

前月との比較でも、売上高で8ポイント、収益状況は10ポイント改善したが景況感には2ポイント悪化している。

業種別のD I値では、製造業は、金属加工及び一般機器の業界が落ち着きを見せたが引き続き好調であり、コンクリートの材料となる骨材も好調であるとの報告があり、製造業全体として、売上高が20ポイント、収益状況及び景況感はそれぞれ15ポイント前年同月比から増加した。

非製造業では、運送業界では原油価格の高騰を販売価格に転嫁できず収益状況を圧迫しているとの報告があったが、小売業界では仕入が安定し収益状況の改善がみられるとの報告があり、非製造業全体としては、前年比、売上高売上高は20ポイント、収益状況は16ポイント、景況感には13ポイントそれぞれ改善した。

来年10月に行われる消費税増税後の需要の低迷や、景気の冷え込みなどを危惧する報告があった。これまで仕入価格の値上り分の価格転嫁を適正に行えない状況があり、中小企業者が安定的に経営を続けていくためには経営状況の判断を行い適正な転嫁を行えるように促す施策が期待される。また、引き続き人材の確保難から事業の縮小等を懸念する報告もあった。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフトの売上は前倒し受注があった前月の反動から前年同月比96.8%。ホテル・レストラン・居酒屋向けの業務用が伸長し、全体として前年同月比101%と前年並みを確保した。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の売上は量販店及び専門向けが前年並み。輸出向けは台湾向けが低調だが中国圏が好調で、前年比99.7%。OEMは焼き菓子・冷凍ケーキが前年同月比110.4%、全体の売上は前年同月比104.5%。
食料品（麺類製造）	「ほうとう」は冬のイメージがぬぐえないため、土産品の販売が低調。その他の商品も売り上げが伸びない。外国人観光客向けに商品を考える必要性を感じている。
食料品（パン・菓子製造業）	8月末からの繁忙期に向けての人材確保ができて一安心だが、人材確保の難しさを痛感している。
食料品（酒類製造業）	消費が冷え込んでおり、業界として解決していく必要を感じている。
繊維・同製品（アパレル）	自社ブランドを持ち製造販売を行っている企業は自社での営業展開が可能なのに対し、下請け加工業者は自社での生産調整に限界があり、発注元の業況に左右される。双方とも人材不足は共通した課題である。
木材・木製品製造	住宅業界は新規物件が大幅に減少し、売上高は前年同月比で12%悪化した。
窯業・土石（砂利）	骨材に使用する砂の出荷が堅調。売上高が前年同月比20%増加した。

窯業・土石（山砕石）	年度末からの繰り越し工事により前年同月比で10%増加。今後はリニア中央新幹線関連の工事動向に期待している。
鉄鋼・金属 （金属被覆・彫刻業・熱処理業）	外資系からの発注量が5月までは好調であったが次第に減少傾向にある。アメリカの関税問題等、景気への影響に注視していく。
一般機器 （工作機械部品加工業）	人材不足が課題であり、組合員企業従業員の採用意欲が高い。
電気機器 （工作機械部品加工業）	公共機関からの発注計画はあるが、まだ動きは無い。民間は既存設備の改修工事（省エネ対策等）が多い。県外からの応援要請が増加した。
電気機器 （工作機械部品加工業）	半導体部品製造は在庫調整及び受注量の減少が予定されている。また、自動車や工作機械製造の業種も低調であり、先行き不透明。
宝飾（貴金属）	海外商品に押され、制作受注は減少傾向にある。

● 非製造業

卸売（紙製品）	中国の輸入規制から、国内古紙がオーバーフロー状態となっている。
卸売（ジュエリー）	21日より開催された香港ジュエリー&ジェムフェアでは真珠製品が好調で、売上高は前年比で10%増化した。
小売（青果）	野菜の入荷量が順調、売上も上向いた。すもも・桃の入荷が加わり、収益状況も改善した。7月はお中元用の果物販売増加に期待している。
小売（食肉）	前年同月と比較し国産豚の仕入相場が安くなってきているため、収益状況の改善につながっていくと考えられる。
小売（その他）	発注元から値引き競争を強いられ、売上があっても収益につながらない。このような発注元の課題改善を組合として行っていきたい。
小売（ガソリン）	OPECとロシアなどのOPEC非加盟産油国との協調減産合意や、イラン核合意からの米国離脱により原油価格が3年半ぶりの高値で推移している。
商店街	商品の値上りが経営を圧迫している。来年の消費税増税による消費の冷え込み、景気の悪化を危惧している。
宿泊業	例年より早い梅雨明けになったものの、台風や前線による雨の日が多く、空室のあるホテル旅館があった。GWと夏休みに挟まれた6月は天候不順の影響もあり、宿泊客が減少するため、集客につながる取り組みの必要性を感じている。
一般廃棄物処理	運転手の求人を行うと、定年退職者の応募が多い。自分の時間を確保しつつ年金受給までの時間をパートタイムによる働き方の希望が多い。受け入れ企業側は正社員にとらわれず、さまざまな雇用を検討していく必要性を感じている。

警 備 業	4月より警備員の業務委託量が増加しており、6月も右肩上がりの状況で、売上高、収益状況とも増加した。警備員不足から受注に対応できない状況である。 現状では稼働率は非常に高いが、休日取得がままならず、若手を中心に他業種への転職が止まらない状況にあり、人材の確保・定着が課題である。
建設業（総合）	6月の県内公共工事動向は、前年同月比で件数は3%、請負金額は29%共に増加している。6月末累計でも件数で5%、請負金額で15%共に増加している。
建設業（型枠）	全国の型枠大工は、この3年で2,000人以上減少している。原因は職人の社会保険への強制加入にある。加入率は3年間で90%を超えたが、事業者が負担する法定福利費分を工事単価に転嫁できず200社以上の工務店が廃業したためであり、県内においても多くの事業所の廃業が危惧される。
建設業（鉄構）	首都圏の物件については材料価格の高騰分を受注価格に転嫁することができたため、売上高が増加した。前年同月比5%増化。
設備工事（電気工事）	工事件数は少ないが、見積依頼が少々出てきた。今後の発注につながるよう期待している。石油価格の高騰に伴い材料価格も上がっている。
設備工事（管設備）	新設住宅着工件数は数か月連続で減少していたが、分譲住宅の増加から、若干であるが改善した。公共工事は地域によりばらつきはあるが前年比では減少傾向である。
運輸（タクシー）	燃料代の値上がりと、人材不足が課題である。夏に向けて旅行客等によるタクシーの利用増につながることを期待している。
運輸（バス）	燃料代の値上がりが、収益状況を圧迫し、前年同月比で20%悪化した。人材不足が引き続き課題である。
運輸（トラック）	燃料代の値上がりを料金に転嫁できず、収益状況が悪化した。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/06	2018/05	2018/06	2017/06	2018/05	2018/06	2017/06	2018/05	2018/06
売 上 高	-5	15	15	-3	3	17	-4	8	16
収 益 状 況	-15	-5	0	-13	-10	3	-14	-8	2
景 況 感	-20	0	-5	-17	0	-10	-18	0	-8

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) =D. I 値

